

1 年度のハイライト

＜教職大学院を主体とした新たな大学院に機能強化＞

社会全体、そして学校教育の急速な変化に伴い、高度化・複雑化する現代的な教育課題に対応できる教員を養成するため、教育現場や教員に対する社会的なニーズ等を踏まえ、令和4年4月に次のとおり大学院学校教育研究科を再編し機能強化を行った。

○専門職学位課程（教職大学院）：入学定員を170人から190人に拡充

教科等に関する領域及び発達支援に関する領域を修士課程から移行し、教科教育及び横断的・総合的な内容を扱う分野の新設、特別支援教育の専門性の強化及び教育課程等の拡充、GIGAスクール構想に対応した教員養成、学校運営、学級・学年経営を担うミドルリーダーの育成などに関する機能と体制を拡充・強化

○修士課程：入学定員を130人から20人に整理

様々な悩みを抱える児童生徒に対する相談・支援など、チーム学校の一員として課題の解決に貢献できる、学校教育を支える教育支援人材の養成・研修に関する機能と体制を整備

【令和3年度まで：入学定員170人】

専門職学位課程（教職大学院） 教育実践高度化専攻
教科教育・学級経営実践コース
先端教科・領域開発研究コース
学習臨床・授業研究コース
現代教育課題研究コース

【令和3年度まで：入学定員130人】

修士課程 学校教育専攻
発達支援教育コース
心理臨床コース
学校教育深化コース
国際理解・日本語教育コース
教職キャリア支援コース



【令和4年度から：入学定員190人】

専門職学位課程（教職大学院） 教育実践高度化専攻
学校教育実践研究コース
教科教育・教科複合実践研究コース
発達支援教育実践研究コース

【令和4年度から：入学定員20人】

修士課程 教育支援高度化専攻
心理臨床研究コース

＜教員就職率、学部教員就職率が全国第2位（全国唯一10年連続で教員就職率80%以上を達成）＞

文部科学省が令和4年12月16日に発表した「国立の教員養成大学・学部（教員養成課程）の令和4年3月卒業者の就職状況」において、本学学部卒業者の教員就職率（大学院等への進学者及び保育士への就職者を除く。）は82.4%で、国立の教員養成大学・学部（教員養成課程）44大学・学部中、第2位であった。10年連続で80%以上の教員就職率を保ち、5位以内を維持しているのは、全国で唯一本学のみとなっている。

## <東京書籍とネーミングライツに関する協定を締結>

本学と東京書籍株式会社（以下「東京書籍」）は、令和4年9月から「附属図書館 アクティブラーニングスペース」の愛称を「東京書籍 Edu Studio（エデュスタジオ）」とする、大学施設のネーミングライツ（施設命名権）に関する協定を締結した。

本学としては、初のネーミングライツ施設となり、本協定を機に東京書籍と産学連携を図り、施設内にデジタル教科書を体験できるコーナーを開設し、学生向けにデジタル教科書の操作方法のサポートなどを行っている。

## <コロナ禍の各種取組>

### （1）学生への支援『学生応援 200 円ランチ』の実施

コロナ禍における学生たちへの経済面と健康管理面の支援を目的として、令和2、3年度に引き続き第一食堂（百の花食堂）において、『学生応援 200 円ランチ』を実施した。

この企画は、上越教育大学振興協力会（地域企業・住民による団体）からの支援のほか、上越教育大学後援会（保護者の発意により設立された団体）や日本学生支援機構からの補助により、通常 400 円の「おすすめ丼」と「週替わり麺」を本学学生限定で半額の 200 円として、前期と後期に各 5,000 食、合計 10,000 食を学生に提供することができた。

### （2）大学祭「越秋祭」の3年ぶりの開催

コロナ禍により開催を自粛していた大学祭「第 40 回越秋祭」を、令和4年10月22日、23日に3年ぶりに開催した。令和4年度のテーマは、過去の先輩方からのバトンを未来へ繋いでいくという意味を込め「リスタート～よう（40）やく繋がる越秋祭～」として、キャンパス内では各課外活動団体等による公演やコンサートなど様々な催しが開催され、生き生きと輝く学生の姿が見られた。

### （3）来場型によるオープンキャンパスの再開

高校生やその保護者など進学希望者を対象にしたオープンキャンパスは、コロナ禍において Web 開催としていたが、令和4年7月30日に3年ぶりに来場者約 200 名を受け入れて開催した。

参加者来場型での開催に伴い、キャンパスツアーと題した、在学生の案内によるキャンパス内の見学の他、ミニ講義、個別相談コーナーやキャンパス内にある学生宿舎の見学なども実施した。

## <附属学校：Apple 社の Apple Distinguished School 2022-2025 に認定>

本学の附属中学校では、教育活動における ICT を用いた先進的な取組が評価され、Apple 社より「Apple Distinguished School 2019-2022」として認定を受けていたところであるが、継続的、先進的な取組状況が改めて評価され、「Apple Distinguished School 2022-2025」として、Apple 社から令和4年11月18日に認定のフラッグ、プレートが授与された。なお、日本国内で同認定を受けた学校はこれまでに 11 校である。